

室内楽演奏オーディション合格者による披露演奏会

# 第24回 室内楽コンサート

2021年3月7日（日）

15:00 開演 [14:30 開場]

洗足学園 前田ホール

## △新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐためのお願い

- ・マスク着用の徹底、こまめな手指消毒・手洗い・咳エチケットの励行にご協力ください。
- ・大声や対面での会話はお控えください。
- ・演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしてください。
- ・休憩時、終演後はスタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いているドアから混雑を避けて入退場してください。
- ・客席内やロビーでのご飲食はお控えください。
- ・出演者への面会はできません。出演者への花束・プレゼントもご遠慮ください。
- ・万一、集団感染の発生が明らかになった際は、保健所に入場者の情報を提供する場合がございます。

主催：洗足学園音楽大学・大学院

# ごあいさつ

本日はご来場頂き、ありがとうございます。

洗足学園音楽大学では学部 2~4 年生を対象に「室内楽研究」をレッスン形式で授業を行っております。年度末試験によって優秀 17 グループを選抜し、再度演奏会形式のオーディションを行いました。本日演奏する 4 つのチームはオーディション評価上位に選抜された優秀な学生達であります。

御来場のお客様には、今後楽壇に羽ばたく若人を温かい拍手で見守っていただきたいと思います。

洗足学園音楽大学・大学院教授

室内楽研究運営委員会委員長

渡部 亨

## Program

### 打楽器四重奏

#### G.ラフンソン／打楽器 4 重奏のためのエクストレーム・メジャーズ YKJUR

Gair Rafnsson (b.1937) // YKJUR 《extreme measures》 for percussion quartet

Per. I 江原 和紀(学 2) Per. II 福本 奏音(学 2) Per. III 東 廉悟(学 4) Per. IV 小松 幹(学 4)

### サクソフォーン四重奏

#### J.P.ブーニョ／サクソフォーン四重奏のための小品

1. 躍動的に 2. 軍隊調に 3. アンダンテ 4. 終曲

Jean Pierre Beugniot (b.1935) // Pièces pour Quatuor de Saxophones

I. Dinamico II. Martial III. Andante IV. Final

S.Sx. 秋山 圭輔(学 4) A.Sx. 矢澤 亘(学 2) T.Sx. 倉元 明宏(学 3) B.Sx. 金 樹治(学 4)

### Intermission

### ピアノ三重奏

#### C.M.レフラー／オーボエ、ヴィオラ、ピアノのための 2 つの狂詩曲

1. 池 2. バグパイプ

Charles Martin Loeffler (1861-1935) // Deux rapsodies

I. L'Etang II. La Cornemuse

Ob. 上原 史織(学 4) Va. 宍戸 育実(学 4) Pf. 島田 湧真(学 4)

### 弦楽四重奏

#### L.v.ベートーヴェン／弦楽四重奏曲 第 4 番 ハ短調 作品 18-4

Ludwig van Beethoven (1770-1827) // String Quartet Nr.4 in c-moll Op.18-4

I. Allegro ma non tanto II. Andante scherzoso quasi Allegretto III. Menuetto Allegro IV. Allegretto

Vn. I 松本 志絃音(学 3) Vn. II 山下 智史(学 3) Va. 山本 里真(学 3) Vc. 原 美月(卒)

# Program Notes

## G.ラフンソン／打楽器 4 重奏のためのエクストレーム・メジャーズ YKJUR

ゲイル・ラフンソン(Rafnsson ランソンとも)は打楽器奏者、作曲家、教育者である。アイスランドのアーケレイリ音楽学校で打楽器を学び、その後 FIH 音楽学校を経て、1997 年にイギリスの王立ノーザン音楽大学を卒業した。同年に開催された打楽器芸術協会(PASIC)の作曲コンクールでは、彼の作曲したマリンバ独奏曲《Hekla》が第 2 位に選ばれた。

《エクストレーム・メジャーズ YKJUR》は、2 人のマリンバと奏者と 2 人の打楽器奏者のための打楽器 4 重奏曲である。2000 年に作曲され、4-mality percussion quartet によって初演された。この作品は、複雑なリズムと拍子によって展開される。シンプルなメロディーがさまざまなリズムと響きの中で何度も提示され、最後のセクションでは、マリンバとパーカッションのユニゾンによって徐々に盛り上がっていき、クライマックスを迎える。

(学 4 東 廉悟)

## J.P.ブーニョ／サクソフォーン四重奏のための小品

ボルドー出身の作曲家ジャン・ピエール・ブーニョ(1935 年生まれ)により 1974 年にジャック・デロージュ四重奏団のために作曲された。

第 1 曲〈Dinamico 躍動的な〉。強烈なフォルテの連符で幕を開け、ショスタコーヴィッチを彷彿とさせる音楽が展開される。休符の存在が効果的に緊迫感を高め、6 連符と 5 連符が同時に演奏されるなどのリズムのもつれによって攻撃性を増していく。狂気とも取れるこの楽章は、これからの展開を予期させるかのようである。

第 2 曲〈Martial 軍隊調〉というタイトル通り、作曲家の社会的なイデオロギーすらも感じさせる音楽。行進のごときリズムと後半部のトゥッティは不気味な説得力と強制力を持って迫り来る。

第 3 曲〈アンダンテ〉。他の楽章と比較して作曲家自身による指示が目立つことから、ブーニョ自身この楽章に深い叙情性を求めていると推察される。冒頭のバリトン・サクソフォンに込められた詩情は、聴衆に何を語りかけるのか。

第 4 曲〈終曲〉。これまでに登場した複数のモチーフが集結する。それらは同時に重なるが、類似した動きによって音楽の秩序は保たれ、迫力は衰えない。どこか儀式的とも言えるダンスブルな中間部を経て、攻撃性と狂気の再現を繰り返し、4 つの声部はやがて一つの形へと集い、終結を迎える。

(学 4 金 樹治)

## C.M.レフラー／オーボエ、ヴィオラ、ピアノのための 2 つの狂詩曲

チャールズ・マーティン・レフラー(1861~1935 年)は、アメリカ人を両親にドイツで生まれたヴァイオリニスト・作曲家。ベルリンとパリでヴァイオリンを学んだ後、ボストン交響楽団に入団。同楽団で自作曲を演奏し、本格的に作曲家活動を始めた。レフラーは同時代のフランス音楽やロシア音楽に深く根ざした音楽語法を発展させ、同時に象徴主義文学や頹廢主義の詩人たちにも感化された。そのため各曲にフランスの詩人モーリス・ロリナ(1846~1903)の詩が添えられている。

本日演奏する《2つの狂詩曲》は1898年に声楽とクラリネットとヴィオラとピアノのための《3つの狂詩曲》として作曲されたが、3年後の1901年にオーボエとヴィオラとピアノのための《2つの狂詩曲》に仕立て直された。ドイツ盛期ロマン派音楽に則りながら、フランス近代の影響も感じられる曲である。

第1曲《池》「目が眩むような古い魚たちで一杯の池だ…」から始まる。魚たちは姿を表す事なく、ヒキガエルの声が聞こえるだけ。月が現れる夜は幻想的だが、その鏡には誰が映し出されるのだろうかという意味の詩であり、情熱的だが暗く、死の影が曲を通して漂っている。

第2曲《バグパイプ》「彼のバグパイプ 森の中で嘆いている まるで吹く風のように 鳴く鹿のように…」から始まる。柳も櫓も泣きはしないが、このフルートやオーボエの声は、ひとりぼっちの女を恨んでいるようだった。彼は死んでいるが、夜になると私の魂の奥深くで、古い恐怖の隅に、彼の呻き声を聞くのだという意味である。色彩豊かで抒情的な「歌」となっている。

(学4 上原 史織)

#### L.v.ベートーヴェン／弦楽四重奏曲 第4番 ハ短調 作品18-4

弦楽四重奏曲第4番作品18の4は1799年の夏から秋にかけて作曲された。その年、ベートーヴェンは28歳。ロプコヴィッツ侯爵の後見を得ており、1801年にウィーンのエモム社から刊行された折には侯爵に献呈している。侯爵は貴族、軍人でありながらも芸術活動の熱心な後援者として、ベートーヴェンのみならず、同じく古典派作曲家のハイdnにも楽曲を依頼すると同時に献呈を受けている。ベートーヴェンが侯爵に献呈した作品の中には、交響曲第3番、第5番、第6番といった今日よく演奏される交響曲の名作もある。

ベートーヴェンの初期の創作である作品18は6曲からなるが、中でも第4番は作曲家の真髄と言えるような部分を多く持ち合わせている。決然と、しかし内に膨大なエネルギーを秘める第1楽章。第2楽章の小さく、しかし愉快的なフーガ。第3楽章のベートーヴェンらしいメヌエットとトリオ。それらを総括する第4楽章となっている。また、「運命の調」と言われるハ短調(ハ長調)で書かれているのも特筆すべき点である。

(学3 山下 智史)

曲目解説指導：那須田 務 (講師)